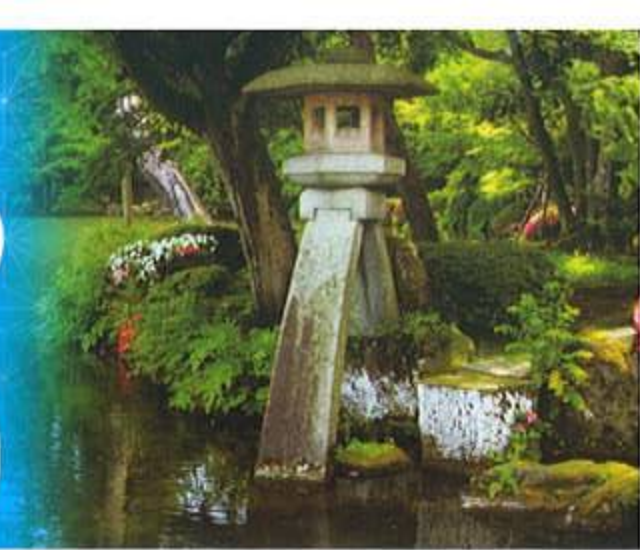


# 文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA 石川県文教会館 2014.8 No.70



## － 特集 －

1頁：「文化の担い手は県民お一人おひとり」

石川県県民文化局文化振興課長 池田 誠氏

2・3頁：「いしかわ新教員研修制度」のねらいと具体策について

石川県教育委員会教員指導力向上推進室 教育次長兼室長 表 純一氏

4・5頁：インタビュー「人」

陶芸家 北村 鶴代氏



## 「文化の担い手は県民お一人おひとり」

石川県県民文化局文化振興課長 池田 誠

藩政期以来培われてきた伝統文化の集積や高い水準の生活文化は、本県の個性でもあり、大きな魅力ともなっております。

本県では、これまでも、「文化振興指針」に基づき、音楽堂の建設や、金沢城の復元整備をはじめとした兼六園周辺文化の森の整備、県内各地の特色ある文化施設の整備など基盤整備を着実に進めてきたほか、能楽、邦楽などの芸能や伝統工芸といった伝統文化の継承・振興に力を注ぐとともに、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される新たな文化の創造にも努めてきました。

こうした本県の豊かな文化にさらに磨きをかけ、後世に確実に継承・発展させていくため、現在、今後の本県における文化振興施策の拠り所ともなる「文化振興条例(仮称)」の制定に取り組んでいます。

昨年度は、県民の文化に関する認識や文化活動の現状を把握するため、「石川の文化」に関する県民意識調査を実施しました。

その主な調査結果としましては、「石川県の文化水準」が他県と比較して「高い」と思う人が6割を超えており、また、「石川の文化」をさらに振興していくためには、「伝統芸能などの継承・活用」、「文化を担う人材の育成・支援」などが大事との回答が多く、さらに、「文化芸術を担う人材の育成」のためには、「子どもや青少年の文化芸術に親しむ機会の拡大」が必要という回答が多くなっております。

この他、「県民に期待される役割」としては、「地域文化(祭り・年中行事など)への参加」、「文化活動への参加」という回答がそれぞれ5割を超えておりました。

また、「県民が行政に求める役割」として、「文化芸術活動への支援・協力」や、「次代の文化芸術を担う人材の育成」などへの期待が高くなっております。

この結果から、県民の皆様は、本県の高い文化水準を維持していくためには、「県民自らが文化活動に参加していくこと」や「次代の文化芸術を担う人材を育成すること」、「伝統芸能を継承していくこと」などが重要であると感じていると言えます。

こうしたことから、さらなる文化振興を図っていくためには、県民の自主性や創造性を尊重しながら、行政が県民の文化活動をしっかりサポートしていくことが大切であると考えております。

ちなみに、文化振興課の事業を少し紹介いたしますと、子ども達が対象のものとしては、文化に親しむ機会を提供するため、各学校で、オーケストラ・アンサンブル金沢の演奏会や、邦楽・日本舞踊といった古典芸能の鑑賞教室等を開催する「芸術鑑賞推進事業」や、美術館の学芸員が美術に関する授業を行う「学校出前講座」などを実施しております。



古典芸能鑑賞教室

参加した子ども達からは、「こういう機会はなかなかないので、いい経験になった。」や「古典芸能を今後も大切にしていきたい。」「もっと日本の文化について知ろうと思った。」などといった感想が寄せられております。

また、広く県民の皆様には、本県が誇る伝統芸能のひとつである能楽を気楽に鑑賞していただく「観能の夕べ」や、金沢の茶屋文化を体験していただく「金沢芸妓の舞」、一流のクラシック音楽の演奏を低料金で気軽に楽しめる「ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭」などを開催するほか、美術館等の文化施設では、魅力ある企画展の開催に努めるなど多彩な文化事業を実施しております。

本県の豊かな文化を楽しんでいただける折角の機会でもありますので、皆様にも、是非、ご参加・ご来館していただければと思っております。

今後も、文化の担い手は県民お一人おひとりであるという観点から、文化に触れる機会や参加する機会の充実に努めながら、県民の皆様と一体となって本県の文化振興を進めていきたいと考えております。



ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭

# 「いしかわ新教員研修制度」のねらいと具体策について

－ 学びの力を育む指導力の継承と専門性の確立を目指して －

石川県教育委員会教員指導力向上推進室

教育次長 兼 室長 表 純一



はじめに

去る5月に策定の「いしかわ新教員研修制度」は、サブタイトルにあるように、指導力の継承と専門性の確立という2つの大きなねらいを持っています。

その背景として、指導力の継承については、大量退職に伴う急激な世代交代の渦中にあること、また、専門性の確立については、社会の急速な変化に伴い、学校の直面する課題も複雑化、多様化しており、これらの課題解決を図るには、高い専門性を持つ教員が核となつて、学校が組織的に対応することが最も迅速かつ効果的であるとの認識によるものです。

以下、新教員研修制度について、改革の背景にも詳しく触れながら、具体的な改善点を取り上げていきたいと思ひます。

以下、新教員研修制度について、改革の背景にも詳しく触れながら、具体的な改善点を取り上げていきたいと思ひます。

## 1 教員の世代構成の変化

教員の世代構成については、便宜上、採用後約10年間の30歳代前半までを「若手層」、30歳代後半から40歳代前半までの約10年を「中堅層」、40歳代後半から定年までの約15年を「ベテラン層」という3つの世代に分けて述べます。

本県では、50歳以上の教員は全体の半数近くを占め、さらにベテラン層というくくりで言えば、6割近くを占めます。従って、今後10数年、教員の大量退職、大量採用が続くとすれば、急激な世代交代が一気に進むと見込まれています。

そこで、各世代ごとの現状や対応策を順に見ていきたいと思ひます。

まず、若手層についてです。ここ数年、教員の大量採用が続いていますが、それでも現在のところ、新卒から30歳代前半までの若手層は教員全体の2割を少し上回っている程度です。10数年後には、現在の若手層は「中堅層」となり、現在のベテラン層の半分以下の人数しかいない将来の「ベテラン層」をしっかりと支えていかなければなりません。

このため、悉皆研修である初任者研修や2年目・3年目のフォローアップ研修、5年経験者研修、10年経験者研修を充実させます。具体的には、例えば、5年経験者研修の先生が初任者のメンターとなつたり、公開授業を初任者に見せたりすることを通して、後輩（初任者）を育成する意識を持ってもらいます。また、10年経験者研修では、SWOT分析を学び、学校運営への参画意識や企画力の育成を図ります。このようにして、学校経営の一角に参画する意識づくりを早い段階から取り入れていくことにしました。

ただ、優れた資質を有し実践力ある教員を育成するに

はかなり時間がかかりますので、少しでも早くということで、教員となる前の段階にも着目しました。すなわち、いしかわ師範塾において、本県の公立学校教員を目指す大学生や講師の皆さんを対象にした、学生クラス、講師クラスをそれぞれ開講しました。そこでは、退職したベテラン教員が指導員となり、教員としての心構えや授業づくり、褒め方・叱り方、話し方・聞き方などの実践的指導法を、少人数クラスの中で丁寧



▶ロールプレーによる演習（学生クラス）



▶小グループによる模擬授業指導（学生クラス）

次に、中堅層についてですが、全教員の2割しかおらず、大変層が薄い上に、管理職や主任等の大半をベテラン層が占めている学校が多く、中堅層の教員は各分掌の先頭に立って行動する機会・経験も限られています。このため、将来の学校運営の中核となって活躍する機会を増やし、資質能力を早急に育成する必要があります。

具体的には、いしかわ師範塾ではプレミアム研修（詳細は後述）を今年度から開講、また、県教育センターでは、基本研修の内、採用後15年目の教員対象の中堅教職員研修を改め、20年経験者研修として実施し、中堅層後期（ベテラン層の入り口）に悉皆研修を据え、絶えず学び続け、自身の資質能力の向上を図る機会を提供することとしました。

三つ目に、ベテラン層の経験や指導力、学校運営力等を、どのように次世代に継承していくかがあります。

これに対しては、体力に自信があり、教科指導や生徒指導など様々な分野の力を持つ方の再任用が考えられます。

もちろん、現役時代の管理職や主任という立場から一教諭へと変わりますので、今後与えられる役割をしっかりと再認識し、新たな気持ちで子どもたちや教職員に接することができるよう、いしかわ師範塾の「ストレッチ研修」の受講や、県教育センターの新たな教育課題に対応する講座の受講等を準備しています。

また、マスター教員等の授業公開を拡充したり、ベテラン層が、校内の「若手育成塾」などで直接若手に指導助言を与えたり（こうした取組の実施校は増加傾向にある）、OJT方式による中堅層の育成が必要です。

## 2 学校教育を取り巻く状況の変化

現在、経済のグローバル化や科学技術・産業技術の急速な進歩、産業構造の転換や就業形態の多様化、少子化・核家族化など、社会の諸相で変化が加速しているように見えます。それに伴い、それぞれの相における課題も高度化、複雑化しており、その対応が急がれています。

学校教育においても例外ではありません。

確かな学力の確立や道徳・社会規範等の向上に加え、いじめ・不登校・暴力行為等の生徒指導上の諸課題への対応、特別支援教育の充実、ICT活用への要請、保護者・地域との役割分担と連携の推進など、学校は、複雑化、多様化した多くの今日的課題に直面しています。

こうした課題に対応するには、管理職や一般教職員の資質能力の向上とともに、校務分掌等の組織的対応力の向上が是非とも必要です。

まず、校長や副校長、教頭、及び主幹教諭、指導教諭、各主任等のミドル・リーダーといった縦のラインに繋がる管理職等についてです。これらの位置にいる人には、国や教育委員会の方針を基に、求める人間像の変化や子供、保護者、地域の状況やニーズを踏まえ、時代の動向に迅速に対応し創意工夫を凝らした教育活動を組織的に展開するための、学校運営の手腕向上が強く求められています。

このため、管理職等への研修をさらに体系的、計画的に充実させ、例えば、学校の教育目標の具現化を目指すカリキュラムの編成・実行や、学校運営全体を視野に入れた総合的な事務処理能力の発揮に関する様々なマネジメント能力の育成を段階的に図っていきます。また、県教育センターの課題選択研修を自ら受講し、自校の直面する今日的課題についての新たな知見や実践的な対応策への理解を常日頃から高めておく必要があります。

次に、一般教職員についてです。近年、学校では、教員個々の力量や今までの知識・経験・方法だけでは対応しきれない事案が多く見られるようになってきました。

このため、校長のリーダーシップの下、縦のラインを核とした組織的対応力を強化し、校務分掌や学年、教科等の機能別に分業した各チームがそれぞれの専門性を生かし、諸課題の解決に当たることが大切です。ここで必要となるのは、各チームに、より高い専門性と実践力を有する中核的リーダーたる教員が存在することです。

しかし、残念ながら、現状では、複雑化、多様化した今日的諸課題についての高い専門性を有する教員が、どの学校にも豊富にそろっているわけではありません。

そこで、いしかわ師範塾において、中堅層を対象にした「プレミアム研修」14講座（定員約350名）を今年度から開講しました。例えば、現状把握・分析や外部との交渉・説得・広報を効果的に行う力、カリキュラムマネ

ジメントやタイムマネジメント、危機管理などの諸マネジメント能力、発達障害やインクルーシブ教育などの特別支援教育、メディアリテラシーなどの情報教育、小学校英語の教科化やノーベル賞につなぐ高校理科などの学力向上等に関する最新の学問・理論を身に付ける講座等です。さらに、メンバーの力を引き出すファシリテーション能力向上研修や若手教員を育てるOJTリーダー研修、研修の企画・運営の力を付ける学校研修リーダー研修等があり、いずれも、シリーズ化、インターバル化した中身の濃い研修を準備しました。

専門性をより高めた中堅の先生方が、毎年毎年増加し、各学校の核となり、本県教育の推進力となって活躍するものと信じています。



▶プレミアム研修

## 3 学校研修の充実、自主的研修の支援

これまで述べてきました研修は、県教育センターやいしかわ師範塾で行う研修でしたが、学校には時として、「研修」は基本的には教員個々の責務であり、各自の意欲や自主的な取組に委ねられているとする考えも残っており、そうすると、せっかくの教育センターや師範塾での研修成果も個人の宝物で終わってしまい、学校の活性化に生かされなくなってしまいます。

管理職を含め教職員としての資質能力や人間力の向上等の多くは、学校現場での日々の教育活動や業務を通して鍛えられるものです。従って、学校現場においては、県教委等の研修で得た成果を活用して、学校の直面する（であろう）課題や時代の新しい動向に直結した校内研修を企画・運営し、現場力のある人材育成を意図的・計画的に進め、同時に学校の組織的対応力を一段と強化してほしいと切に願っています。

また、教育のプロである先生方が、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めるために、自主的に研究会を開催しているグループもあり、こうした研究会に大学教授や専門家などの講師等を派遣する事業も始めました。

### おわりに

今回の新研修制度は指導力の継承と専門性の確立という2つのねらいを持っていますが、これを具現化するには、県教委等が行う研修と、学校が行う研修、個人（グループ）が行う研修を相互に関連させることが大切です。結果として教職員個々の資質能力と学校の組織的対応力の向上が達成できれば、本県の児童生徒の心身の健やかな成長に必ずや結びつくものと考えています。

終わりに、保護者や地域の皆様方の一層のご支援、ご協力をお願いいたします。



## 陶芸家 北村 鶴代さん

現在小松市上八里で作陶。目展会友、現代工芸美術家協会本会員、石川県美術文化協会会員。国内外の数々の名立たる美術展に出品される一方、日本現代工芸美術展等の審査員や北陶の陶芸教室で講師を務められるなど精力的にご活躍をされていらっしゃる北村鶴代さんに作陶への思いや今後の抱負などについてお話を伺いました。

インタビューアー 石川県文教会館 館長 近藤繁彦



**館長** 小松のお生まれですが陶芸との関わりはいかがでしたか。

**北村** 国府の方ですが、あの辺は九谷焼の木地屋さんが多く、小学校の頃、通学路の途中で職人さんがロクロを引いているのを自然と見たり、茶碗の欠片を拾って遊んだりとかそれが日常風景でした。仕事として見ていました。

当時は、今と違って学校で作ったこともなく、焼き物をする人はその窯家の跡継ぎとかで、専門の美術の学校に行って作っていくのだなという感覚でした。

く、焼き物をする人はその窯家の跡継ぎとかで、専門の美術の学校に行って作っていくのだなという感覚でした。

### — 雪峰先生に師事して —

**館長** 昭和55年から陶芸家の飯田雪峰（いいだ せっぽう）氏に師事されたのですが、どのようなきっかけですか。

**北村** 皆さんがお茶やお花を習いに行くのと同じように趣味で陶芸を始めました。その頃は、勤めを持っていたので仕事帰りに飯田先生の教室に行っていました。

**館長** 飯田雪峰先生に師事されていたかがでしたか。

**北村** 雪峰先生は実技では時折厳しい面がありましたが、私は趣味から入っているので、自分のやりたいことが仕事になっていけばいいなあという気持ちでやっていたので苦しいという気持ちはありませんでした。

飯田先生はあまり手取り足取りという指導ではなく、ここをこうしなさいとか細かい指示も特になく、技術的なことを尋ねると答えてくださいますが、それぞれのしていることや好きなこと、持ち味を生かしてくれるという感じです。ですから、楽な気持ちで自分の思いを作品に出してこれたと思います。

### — 展覧会への挑戦 —

**館長** 当館主催のいしかわ県民陶芸展が今年で27回目になりますが、北村先生はその第1回目に出品されましたね。

**北村** 趣味だけでもやっていけるかなと思っていた頃、県民陶芸展が初めて開かれるとのことで出してみました。石川県教育委員会賞を頂き、それから火がついたのか、金沢市の工芸展などいろいろな展覧会に出していきました。そして、だんだんと中央の展覧会にも出すようになりました。

**館長** 平成元年に全国レベルの第28回日本現代工芸美術展に初入選されましたね。その前後はいかがでしたか。

**北村** その前に石川県の現代美術展に初めて出した年がありましたが、その年は落ちてしまいました。そういうことがあると、余計がんばらなくてはという気持ちになり、いろいろな展覧会に出していきました。挑戦することに一生懸命でした。

**館長** 初入選されたときは、これで陶芸でやっていけると自信をもたれましたか。

**北村** 当時はまだ陶芸だけで食べていけるという自信はなく、経費もかかるので、勤め先に恵まれていたこともあり、仕事をしながら陶芸の勉強をした方がよいと思っていました。その方が短い時間に集中して焼き物に取り組めるという思いもありました。ですから、展覧会に出す作品は帰ってからの時間、夜や休みの日に作っていました。今でもそういう時間に作る人が多いです。

**館長** 時には陶芸をやめたいと思われたことはなかったですか。

**北村** 展覧会ぎりぎりになってまだ焼き上がっていないときにどうしよう、ということはあるありますが、作るのをやめたいと思ったことはないですね。展覧会にずっと出し続けていると、今年は休もうかなと思うこともありますが、せっかくここまできたのにと、続けることの方が大事だなとか、そう思いながらやってきました。

**館長** 作陶を続ける上でご自身の支えとか、心の拠り所といったことはどんなことでしょうか。

**北村** 人に恵まれていることですかね。勤めていたときには上司の方のご理解があって、焼き物を習い出してからは雪峰先生、展覧会に出すようになってからその方面の先生方からいろいろ教えていただくことがあり、また、そうしている中で仲間の人たちもできてきました。

**館長** 伸びてくる若手に対して、先生方はどのようなアドバイスをされていますか。

**北村** 先生方は作品を見ると思ったことをはっきりとおっしゃいます。以前、日展に初めて出した年は落ちて、次の年は入選したのですが、落ちた年に先代の浅蔵五十吉先生に「もっときれいな仕事しないとだめや」と言われました。それからは、その時の言葉を思い出しては作っていったからよかったのですが、もし、あのとき素直にそう思えなかったらそこまでだったと思います。

**館長** 自分と同じ志をもつ若手を育てていこうと、温かさでおっしゃるのでしょね。若手もそれを感じて伸びていくのでしょうかね。

**北村** 現代工芸の先生方は若いときから展覧会に出していらっしゃるって、きちんと作る、期限までに作るといった同じような苦勞をしていらっしゃるの、よくわかっていらっしゃるのだと思います。

**館長** 平成5年に第49回石川県現代美術展で最高賞を受賞されたときのお気持ちはいかがでしたか。

**北村** その頃は、現代工芸の作家の中に入ってからまだそんなに経っていませんでしたので、私が頂いてしまっているのかと恐縮しました。日展系や伝統工芸、いろいろな会派の作品がある中で頂けたのはよほど運がよかったのかなと思いました。



館長 平成2年に日展に初入選された後は。

北村 その後、勤めも作陶もだどどちつかずになると思い、不安はありましたが勤めを辞めまして、本格的に作陶に切り替えました。そして、自分の作品は自分の窯で焼きたいと平成3年に上八里に自分の窯と仕事場を持ちました。



前から休みの日などに、飯田先生に言われて県内各地の陶芸教室に指導に出向いたりしていましたが、それも続けながら展覧会に出す作品や商品みたいなものも作ったりしていました。

穴水など能登の方は昼間働いていらっしゃる方が通ってくる夜の教室なので、それが終わってから夜中に小松に帰ってくることもありました。

### — 作品に表れるもの —

館長 現在、アマチュアの方々に指導されていていかがですか。

北村 私は、60歳以上の退職された方が多い教室をいくつか受け持っています。皆さんはいろいろな勉強をされていて、若いときから焼き物を見るのが好きだったとか、お茶やお花とかいろいろな趣味をお持ちでそこから焼き物に入って来られたとか、そういった方が多いです。私の方が逆に教えてもらっています。

学校で技術的なものを習ったということも大事ですけど、人生の中でいろいろなことをしたのがその人の作る物に人柄となって出てくるようです。

以前、有名な陶器会社の技術の方に勤めていらしゃった人が、きちんとしたものではないものを作りたいと入って来られましたが、やはり作る物はきちんとしていました。そういうのは体に染み付いたというか、その人の性格がそういうのが好みとなってしまっているのかなと思いました。

県民陶芸展で作品を見ていると、この人は几帳面な方だとか、特別きれいな形ではなくてもなんか好きな形だとか、その人その人の性格とか人柄が出ているような感じがします。

教室で生徒さんに基本的な作り方を同じように教えますが、それぞれの好みや性格があり、たとえ寸法を同じに言ってもできあがる物は10人いたら10人とも違います。それが作品というか。

館長 現在、先生が取り組んでいらしゃるテーマとか、モチーフはいかがですか。

北村 私はずっと鮫肌釉という釉薬を使っているのですが、展覧会に出す作品は抽象的なもので、テーマとしては海とか山とかの雰囲気、朝焼けの感じとかはありますが、割と自分の気持ちを出すような作品が多いです。見た人によって、受け止める感じがゆったりできる雰囲気だとか、作品から何か届けばいいなと思っています。

館長 先生の思いとは違って受け取られた時はいかがでしょうか。

北村 例えば、私が楽しい感じにと思って作っていても見た人にとっては重く感じることもあったり、山の感じで作っても海の感じがするねと言われてたり、見る人にとって感じ方はいろいろ違います。自分の思いがそのまま受け止められた時もうれしいですが、自分が思ってもいなかったことを言われるとそういう感じ方があるのかと逆に驚き新鮮に思います。

館長 県民陶芸展の作品の審査会で審査員の先生方が大賞を選ぶとき、一度に決まるので驚くのですが。

北村 その作品に強い訴えるものがあるとそれを感じるのは皆さん一緒なんですね。中央展の審査にいくと、そのような作品に審査員の手が一斉に上がるということがよくあります。審査員ではない一般の皆さんが見てもそうだと思います。

### — 陶芸への思い —

館長 最近の陶芸家を志す若い方についてどのように思われますか。

北村 今年で現代美術展の審査員を3回務めたのですが、最近の若い作り手たちは展覧会離れの傾向があるようです。展覧会用の発表作品を作ることと、売れる商品を作ることとの兼ね合いが難しいようです。

以前は賞をとった作家の作品であれば売れた時代もありましたが、最近の買い手が作家名にこだわらず、自分が好きだと思う物を選んで買う時代と変わってきました。

陶芸を仕事にしたいと思って入って来る人、趣味から入って来る人、いろいろいらっしゃると思いますが、好きだからやっていると、続けていけると思います。好きだったら、例えば飯田先生について勉強していこうとか、あれもこれももっと知りたいと一生懸命自分から求めて勉強をされるとか、そういうのは今も昔も変わらないと思います。

館長 陶芸をされている中で大切にしていられることはどんなことでしょうか。

北村 粘土に触っていると、なんとなくこうしたいなという思いが出てきます。いつもではないですが、はじめにミニチュアみたいのを作ってみて、いろいろ触っているうちにこうしてみたらいいかなとか思いが出てきます。

館長 設計図みたいな物はあるのですか。

北村 私は、たたら技法といって粘土を板状にしたものを組み立てて作るの、ある程度の設計図を作ります。ただ組み立てた時に、粘土の固さなどによってもうちょっと膨らませた方がいいとか変化をつけたり、自分の思いとは違うなと感じたら切ったりくっつけたりすることはあります。

館長 粘土や釉薬はどのようにお使いですか。

北村 私は信楽の粘土を使っていますが、そのまま使うのではなく自分用に土をブレンドし、思う色が出るとか気に入るようになるまで何度もテストをして作っています。釉薬は既製品ですが、どのようにかけたら自分の思うような表情が出るのだろうかとかかけ方をいろいろ変えて使っています。

館長 今お持ちのテーマやモチーフというものは、今後は変わっていくのでしょうか。

北村 今まで私が一人でしてきたものがあるので、まるっきり変えてしまうというより、少しずつ色を変えてはといったことをしています。今の鮫肌は20年30年続けていますが、生地や釉薬のかけ方を変えたりしてきました。

館長 展覧会に作品を出し続けるということは、先生にとってどのようなことでしょうか。

北村 出すのをやめたとすると、日々普通に過ごせると思いますが、次はこうしようという気力が無くなっていくような気がします。飯田先生のように展覧会に出さなくても次々と意欲的に作られる方もいらっしゃいますが、そうでなかったら、今年はどうしたけど次はああしてみようと、けじめけじめの展覧会があればそれに向かって作るということがあります。

館長 苦労するけれども振り返ると成長の過程が見えるということですね。先生の今後の目標をお聞かせください。

北村 目標というか、作っていききたいものを余裕を持って作れるようになりたいなと思います。今は日々あくせくしながら作っているの、もっと余裕が出ると自分の思いを作品の中に入れていけるような気がします。まだまだですが。

館長 ありがとうございます。

先生のご活躍をお祈りしております。



事業紹介

**2014文教国際理解講座**

アメリカ・カナダ・韓国出身のネイティブスピーカーの指導で、外国の言葉や文化を学べます。定員に空きのある講座には途中入会ができます。お電話でお気軽にお問い合わせください。

実施期間：2014年5月～2015年2月  
 対象：教職員 一般 高校生  
 定員：1講座20名  
 受講料：年額36,000円（年35回）（教材は実費負担）  
 ※途中入会の方の受講料は入会後の回数分となります。



タスケン先生



コンソルボ先生



受講生の声

**韓国語初級**  
 韓国語のクラスは、充実した内容の授業です。キム・ソンヒ先生の授業は丁寧でわかりやすく、受講生は熱心に勉強しています。小人数と言うこともあり、きめ細かい授業を受けることができます。また、とても和やかな雰囲気の中で、楽しく学んでいます。



キム先生

☆ホームページから募集要項等をご覧いただけます。

文教国際理解講座

◇講座時間割

※韓国文化初級講座19:00～20:40

	10:00～11:40	18:30～20:10
火曜日	英米文化 中級	英米文化 準中級 英米文化 上級
水曜日	英米文化 準中級 英米文化 中級	英米文化 準中級 韓国文化 初級※
木曜日	英米文化 初級 英米文化 準中級	英米文化 初級 英米文化 中級

初級：あいさつ程度の会話ができる（英検3級程度）  
 準中級：英語で簡単なコミュニケーションができる（英検準2級程度）  
 中級：英語でコミュニケーションができる（英検2級程度）  
 上級：日本語同様に会話ができる（英検準1級程度）

**教育資料収集整理事業**

当財団では、本県の教育の足跡の顕彰と活性化に寄与していきたいと考え、県内に存在する貴重な教育資料を収集し、保管や展示を行っています。江戸時代に藩学で使われていた書籍や明治時代の教科書をはじめ、教育文献・教育物具等、収集数は5万点を数えます。そのリストは当館のホームページにエクセルのデータとして掲載しており、ダウンロードし自由に検索することが可能です。また、これらの教育資料は当館の資料展示室や物具室で閲覧することができます（要予約）。1階ロビーにおいても随時、収集資料の紹介をしています。

当事業では、この他にも年間を通じて県立学校の活動の紹介等を行うロビー展や11月の教育ウィーク期間中にはどなたでも参加できる教育史セミナーを開催し、多くの県民の皆さまに教育に対して関心と理解を深めていただけるよう努めております。

児童・生徒の社会見学、教職員・PTAの研修のコースに組み入れるなど、当館へぜひともお立ち寄りください。



ロビー展

\*ロビー展の様子は当館ホームページでご覧いただけます。



資料展示室



物具室

**推進委員会と資料調査委員会**



当事業の充実を図るため8教育団体※のご協力を得て、年2回の推進委員会(写真:左上)と年1回の資料調査委員会(写真:右上)を開催しています。

委員の皆さまからは、教育資料の収集整理・活用に関するご意見や小中・高等学校等の資料の情報等を頂戴しています。

※県小中学校長会・県高等学校長協会・県退職校長会・県高等学校退職校長会・県PTA連合会・県高等学校PTA連合会・県教育振興会・県特別支援学校長会

**教育資料の出前展示のご案内**

学校等の教育関係機関に昔の教科書等を貸し出します。

社会科などの学習にお役立てください。お気軽にお問い合わせください。



**\*お願い\***

学校やご自宅で廃棄予定の古い教科書や教具等の教育資料を当館にご恵贈ください。

**ロビー展出展団体の募集**

学校や団体等の活動紹介、絵画・習字・工作等の発表に当館のロビー展をご活用ください。

石川県文教会館 TEL.076-262-7311

文教会館教育資料

事業報告

2014年度 文教アートウェイブ

第44回 金沢放送合唱団創立65周年第50回記念演奏会(5/17)

客演指揮/池辺晋一郎 指揮/石井雄史 加藤ちひろ  
 ピアノ/大野由加(客演) 加藤純子(客演) 酢田夏紀

第1部では、「アメイジング・グレイス」などのポピュラー曲5曲、第2部では、混声合唱とピアノのための組曲「歌はどこから」、第3部では過去の演奏会で歌われた曲を集めた『思い出のステージ』7曲が演奏されました。第4部では、作曲家の池辺晋一郎氏が自作の混声合唱曲集「風の子守歌」を嬉しい紹介を交え、客演指揮しました。

創立65周年を飾るに相応しい素晴らしいステージに、満席の会場から惜しみない拍手が送られました。



第45回 光田健一 トリオ・アルブル trio arbre(6/8)

ピアノ/光田健一 クラリネット/松永彩子  
 フルート/沢野 茜 ハープ/上田智子(ゲスト)

作編曲家、ピアニスト、音楽プロデューサーとマルチな音楽活動を展開する光田健一さんと本県の演奏家たちとの華やかな協演に加え、美しい映像との斬新なコラボレーションのステージが繰り広げられました。

光田健一さん作曲の「いにしえびと」「東雲(しのめ)」「幻想的ソナチネ」など優しく深く心に染み入る演奏の数々に観客は終始魅了され、幸せなひとときを過ごしました。

♪今後の公演予定♪

46回	真夏のミルフィーユ 出演/鳥木弥生(メゾソプラノ) 水上由美(ヴァイオリン) 上田智子(ハープ) 川口 晃(フルート) ◇入場料: 一般2,000円 高校生以下1,500円(当日券各500円増) ※デザート・飲み物付き	8月9日(土) 16:00
47回	金沢桜丘高校吹奏楽部クリスマスコンサート ◇入場料: 無料	12月21日(日) 17:30
48回	バレエの街コンサート2015 ◇入場料: 一般2,000円 中学生以下1,000円	平成27年1月18日(日) 14:00
49回	いしかわフルートフェスティバル ◇入場料: 1,000円	平成27年3月22日(日) 14:00
50回	金沢伏見高等学校吹奏楽部定期演奏会 ◇入場料: 無料	平成27年3月27日(金) 17:00



文教アートウェイブ公演募集

文教アートウェイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に、演劇や演奏会等の公演を希望される方にホールについて利用料と冷暖房費を無料でお貸ししています(照明設備費・舞台技術費等有料)。リハーサルを含む3日間までご利用できます。

詳しくは文教会館事業課までお問い合わせください。TEL(076)262-7311 FAX(076)262-2779

☆ホームページから募集要項や申請書、過去の公演一覧をご覧ください。

文教アートウェイブ

検索

文教会館ご利用のお知らせ

校外学習の昼食・休憩場所に  
文教会館をご利用ください!



204会議室

小・中学校等の児童・生徒さんの校外学習等で、昼食や休憩場所に文教会館の会議室(有料)をご利用ください。様々な大きさ・タイプの会議室があります。事前にご予約ください。

無料となるお部屋(40名)もありますのでお気軽に当館までお問い合わせください。



4階和室大会議室

ほっといっぷく



4階 日本庭園の紹介

杉苔の深い緑が潤い  
四季折々の彩衣をまとった木々  
やさしい時間が流れるお庭です...

4階の和室大会議室や廊下から  
お楽しみいただけます

## 第27回いしかわ県民陶芸展

— アマチュア陶芸作品 募集 —

今回から陶芸展会場は **石川県文教会館** となります!

県内のアマチュア陶芸愛好家の皆様、作品の創作・展示・鑑賞を通して、陶芸の楽しさや豊かさを発見しませんか。

石川県にお住まいの方ならどなたでも応募できます。小さなお子様からご高齢の皆様まで、ぜひ、ふるって作品をお寄せください。お寄せいただいた全ての作品を展示します。発表の場としてご活用ください。

なお、これまで展示会場としていた「アートシアターいしかわ(ラプロ片町7階)」が3月に閉館しましたので、今回から石川県文教会館が会場となります。引き続き多くのご応募、ご来場、ご支援のほどお願い申し上げます。



## ■作品応募について

- 作品規定**
- ・未発表の自作品 (1人1作品のみ)
  - ・一辺が50cm以内、縦横高さの合計が120cm以内
  - ・団体作品は、展示した時に90cm×90cmの範囲内
- 受付日時** 平成27年1月12日(月・祝) 10:00~17:00
- 受付場所** 石川県文教会館 (4階) 大会議室  
〒920-0918 金沢市尾山町10-5 TEL.076-262-7311
- 出品料** 一般:2,000円 青少年(20歳未満):無料
- 審査員** 浅蔵五十吉 飯田雪峰 大樋年雄 高光一生 (五十音順・敬称略)
- その他**
- ・応募作品には応募票、出品料、82円切手の3点を添えてください。
  - ・応募者全員に参加記念品を贈呈します。
  - ・搬入上の注意や返却等の詳細は応募要項をご覧ください。

第26回 大賞「愛惜」  
(金沢市 寺下陽子)

☆応募要項・応募票は、石川県文教会館にあります。

当館のホームページからもダウンロードできます。

いしかわ県民陶芸展

検索

## ■作品展示について

- 展示期間** 平成27年1月17日(土)~25日(日)  
10:00~18:00 (最終日は15:00まで)
- 展示会場** 石川県文教会館 (4階) 大会議室
- 表彰式** 平成27年1月18日(日) 石川県文教会館 (4階) 13:30~15:15
- ◇賞状授与:大賞、石川県教育委員会賞、理事長賞等
  - ◇審査員による講評・作品解説
- その他** 展示期間中、入場者の投票による「わたしの選んだ一点賞」を実施します。投票された方には抽選で若干名に記念品を贈呈します。

入場無料



第26回 審査会の様子



第26回 陶芸展の様子

主催:公益財団法人石川県文教会館

後援:石川県 石川県教育委員会 金沢市 北國新聞社 NHK金沢放送局 北陸放送  
テレビ金沢 エフエム石川 ラジオかなざわ ラジオこまつ ラジオななお FM-N1

## 「いしかわ教育ウィーク」関連行事のお知らせ

## 教育資料ロビー展

文教会館所蔵

## 小学校教科書のあゆみ展

~明治から平成、学びの原点~

期間:11月1日(土)~7日(金)

会場:石川県文教会館1階ロビー



当館が所蔵している明治、大正、昭和、平成の各時代の小学校の国語、算数、社会、理科の教科書を中心に展示します。



入場無料

## 「教育史セミナー」開催

日時 11月6日(木) 14:30~16:00

会場 石川県文教会館401 会議室

講演 演題「特別支援教育の心」

講師 岩田 廣美氏

(前社会福祉法人「富明会」理事長、元授産施設「けやき野苑」施設長、元石川県立明和養護学校長)

長きに渡り特別支援教育の現場をリードされ、地域の授産施設設立にも精力的に携わってこられた岩田先生に、心に寄り添う教育実践や施設の経営についてお話しいたできます。

どなたでもご参加できます。事前申込は不要です。(無料)

